

ビブリオバトル

言語能力を育むモデル校
貝塚市立中央小学校

公式ルール
紹介時間5分
質問タイム2分

ですが、
クラスで実施するために
ルールを変更しました



【ビブリオバトルで盛り合う ～ぜひ、読んでほしいねん！選手権～】

1学期に6年生の各クラスにおいてビブリオバトルを実施しました。
ビブリオバトルを行うことで、次のような効果が期待できます。

- ①読書への関心が高まる。
お気に入りの本を紹介したり、友だちの紹介を聞いたりすることで、本に主体的に関わるきっかけが生まれます。その結果、読書量が増え、言葉を扱う力をより高めることができます。
- ②「思考力・判断力・表現力等」の育成
「話すこと・聞くこと」
「チャンプ本をとりたい！」「こんな本が好きなんだ」といったやりとりを通して、自分や友だちの考えや好みを知ることができます。
- 「書くこと」（発表内容の組み立て）
「どう紹介すれば読みたくなるかな」と工夫することで、文章校正の力が育ちます。
- 「読むこと」の育成を図ることができます。
本をよく読み、紹介で話す内容を考えることで、読解力の向上にもつながります。

- ビブリオバトルを効果的に導入するために
- ①教師のみでのビブリオバトル
教師が体験しておくことが重要
 - ②教員がバトラー、聞き手が子どものビブリオバトル
身近な大人が楽しそうにプレイしている様子を見せ、意欲につなげる
 - ③ビブリオバトルの説明
運による部分も大きいことなどを伝え、負けたときに気持ちの整理をしゃくする。
 - ④ビブリオバトルを何度も繰り返す
何度も実施することで、より伝わりやすいプレゼン、選書になっていく。

実施したルール

- ①4人で予選（1人3分質問タイムなし）
→4人の紹介した本の中から予選のチャンプ本を決定
- ②予選でチャンプ本に選ばれた児童（8人）は、
クラス全員の前で紹介（一人3分質問タイムなし）
- ③投票はクラス全員でおこない、クラスのチャンプ本を決定

本番までの事前指導

- ①ビブリオバトルを行うことを予告
- ②ビブリオバトル紹介動画や実際にしている様子を見せる。
- ③本の決定
- ④原稿の検討（ワークシート）
話す内容を丸ごと書くのではなく、メモ程度で書いていく。
- ⑤話す練習
タイマーをセットして3分間話す練習
- ⑥本番

- 成果〇と課題●
- 〇本の紹介を聞き、本への興味が高まる様子が見られた。
 - 〇予選を通過した児童が自信をもって、全体場で話すことができていた。
 - 全体での場では、聞く側が受け身になりすぎてしまうところもあったので、3分のあとに2分の質問タイムを次回は設けることで聞く側の前向きな参加につなげるようにしたい。
 - 原稿が話す内容そのままに近い子どもも多く、原稿を読む発表になっている姿も見られた。

名前	
本の題名	作者
（発表の設計図）	
みんなへの質問 （疑問提示）	
自分のこと （性格、考え、経験など）	
読んでほしい理由	
内容・あらすじ	
おすすめポイント おもしろポイント	
読んだ感想	
最後のひとし	